

市民の笑顔
お届けします

スマイル Pick Up!

自分たちの将棋を指して県大会優勝



(左から) 三津谷悠馬さん(小2)、北川万葉さん(小6)、北川華愛さん(小5)

とプロの世界に向けて、日々精進されています。副将の悠馬君は、初出場にも関わらず、緊張することなく堂々と戦いを繰り広げたことで、「これからは将棋を頑張りたいです」と笑顔を見せていました。三将の華愛さんは、県内女子の中でトップクラスの実力を持ち、その力を発揮して勝利を重ねたことで、「いろんな人との対戦が楽しいです」と将棋の魅力を教えてくれました。毎週土曜日に猪野瀬まちづくり会館で開かれる子供将棋道場で腕を磨く3人。今後の活躍が楽しみです。



真剣な表情で将棋を指す3人と大人の道場生

恐竜溪谷ふくい 勝山ジオパーク

恐竜博物館誕生の立役者 「北谷の貝化石たち」

福井県立恐竜博物館 主事(研究職員) 安里 開士



1982年の北谷発掘現場と黒光りするワニの歯化石

勝山市を代表する福井県立恐竜博物館は、恐竜を中心とする地質・古生物学博物館で、恐竜化石の一大産地である北谷恐竜化石発掘現場付近にあります。この恐竜博物館、実は貝化石と深いかわりがあることをご存じでしょうか？ 1982年5月、勝山市北谷でトリゴニオイデスという白亜紀の河川に生息していた二枚貝化石が発見されました。そのことをきっかけ、同年6月に貝化石専門の古生物学者、前田四郎博士(千葉大学)と顧知微博士(中国南京地質古生物研究所)は調査チームを編成して二枚貝化石の現地調査を行ったのです。その際、調査員の一人が黒く光る化石を発見します。後にワニの歯化石であることが分かったこの化石は、発見した時点で何の化石なのか分かりませんでした。

種類の判別を専門の研究者に依頼している間に、調査チームは同じ現場からワニの全身骨格を発見します。この場所が、現在の北谷恐竜化石発掘現場なのです。トリゴニオイデスの産地として有名だったからこそ、ワニの全身化石がみつかり、その後の恐竜化石の発見、更には日本初の恐竜博物館設立へとつながっていききました。つまりトリゴニオイデスは、恐竜博物館設立の「ぎっかけ」だったのです。そんな北谷の二枚貝化石たちですが、トリゴニオイデスの発見以降、実は研究が進展しておりませんでした。しかし近年、北谷の二枚貝化石が世界最高峰の保存状態であることが示す証拠がみつかり、有名な英国科学誌「ネイチャー」の姉妹誌である「サイエンティフィック・レポート」誌に7月13日18時付で掲載されました。それに合わせて、恐竜博物館の開館記念日にあたる7月14日から、博物館で一般公開を行っています。ぜひ当館にお越しください。

「福井の恐竜」コーナーの端にたまたむ貝化石とトリゴニオイデス

勝山高校 コラム

「ひびきは空に」〜まこと真・誠・信〜



進化のまちで「シンカ」する

情報化やグローバル化、AIが進化する現代社会において、社会の変化に対応し生き抜くためには、スキルだけではなく、資質・能力を発揮できる人材が求められます。勝山高校では、生徒一人ひとりの好奇心と意欲を強力に後押しして探究活動に取り組み、これからの時代に順応できる人材を育成します。

【全国高校生太鼓甲子園】

7月31日、3年ぶりに開催された大会予選を通過し、10校に絞られた本選への出場を果たしました。

出場団体▼日本文化部 田中優花・永井美鈴・斎藤ひまり・佐藤光・中出結心・向原柚妃・笹木煌・石畝希優・笠松栄介・南部茉優・早川大知・林佳歩・廣作知優・上杉茉緒・酒井清香

勝高祭のお知らせ

テーマ▼勝気の種類かきのたね
〜君が感動の花になる〜
体育祭▼9月1日(木)・勝山高校グラウンド(予備日は4日(日))
文化祭▼9月2日(金)・3日(土)・勝山市民会館・勝山高校

この夏も、勝高生が全国で活躍しました！
【全国高等学校総合体育大会】
バドミントン競技大会
7月23日〜28日、春季高校総体で



「コロナに負けない学校祭を作るために全力で取り組んでいきます！」
(生徒会長)

福井勝山総合病院 脳神経内科部長 白藤 法道



パーキンソン病の治療

今年の4月から脳神経内科医として勝山総合病院で外来・入院診療をすることになりました。脳神経内科が診る主な疾患として、脳変性疾患(アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など)、脳血管障害(脳梗塞など)、脳機能疾患(頭痛、てんかんなど)、脊髄疾患(多発性硬化症など)、末梢神経障害、筋疾患(筋炎、筋ジストロフィーなど)があります。パーキンソン病(以下PD)を簡単に説明させていただきます。

PDの運動障害は、安静時振戦(じつじつとしているときに手足がふるえる)、四肢・体幹の筋強剛・固縮(首や手足の関節を動かすときに抵抗を感じる)、無動(動作が緩徐で運動量や表情が乏しい)、姿勢調節障害(バランスが保てず、棒のように倒れる)、歩行障害(足がすくむ、小刻み歩行)がみられます。特に日常生活で大きく影響するのは歩行障害です。歩行障害のあるPDの方は死亡率が非常に高いということがわかっています。その理由は、転倒による骨折が多く、寝たきり生活になるためです。

治療には多くの薬が使用できますが、適切な治療を行えば歩行障害の進行を抑制することは困難です。そこで薬とリハビリを組み合わせることで、歩行障害の進行を抑えられます。薬とリハビリ

りで15年は自分の力で日常生活ができると言われていきます。まず軽い運動障害であれば、筋力を落とさないこと、手足を動かす関節の範囲を保つことです。ヨガや太極拳が有効であるとも言われています。座った状態でも大丈夫なので時間をみつけて体を大きく伸ばしたり、左右にひねるような運動を繰り返してください。

さらに有効なのは歩くことです。姿勢や心肺機能を良くしたり、腸の動きを活発にしたり、リラクゼーション効果も得られます。週に2〜3回、約30分散歩できればとても効果的です。進行した運動障害であれば、介護保険制度を申請し、施設でのリハビリが自己負担額の1割で受けられます。PDなら介護保険を40歳以上から利用できます。リハビリ担当の方と相談し自分にあたりハビリが良いと思われま。リハビリは本人の意欲がとても大切です。楽しいと感じて積極的に行っていただくことが何より大切です。

PDは治すことはできませんが、運動症状の進行を抑えることはできます。PDに向き合ってリハビリを楽しむことができれば、まず大きな前進です。

